

（京都・学ぶ会）「人とやきもの」の講演会を開催



梅田美津子さん

「やきもの鑑賞家」「やきもの応援団」と言えます。

梅田さんは、やきものを見に来られたお客様とやきもの話をするのが大好きで、それも仕事に携わって

きた年月に比例して年々進化した、最近では「土」と「水」と「火」と「人」によつて生み出される、やきもの

ものと人とのかわりに思いをめぐらすようになったと心境を語られました。

「やきものをつくる人の話」として、今まで交流のあった多くの作家の中から、鯉江良二を取り上げられ、現代陶芸の先駆者である走泥社の八木一夫との出会いから話を始められました。

梅田さんは、鯉江良二との長い付き合いの中で見聞されたエピソードを交えながら、現代陶芸の誕生から継承、そして発展への系譜を熱く話されました。

八木一夫が現代陶芸（オブリエ焼——例えば壺の口を閉じるとか使い道をなくす等）の観音扉の片方を開

き、鯉江良二がもう一つの扉（パフォーマンス陶芸——代表作「土に還る」）を開いたというたとえは非常に印象に残りました。

今こそ現代陶芸はその地位が確立して世間に認められていますが、発表当初は日本では認められず、海外の著名な美術館の買い上げが先にあつて、ようやくその存在や芸術的価値が日本でも評価されるようになった経緯も紹介されました。

次に、瀬戸在住の中堅陶

芸作家の金憲鎬（キム・ホノ）にも触れられ、彼の生い立ちややきものを始めた理由などを話されましたが、「やきものに何かを込めて制作し、その思いを乗せたやきものが何かを発信する」とか、「僕がここにいるんだよというかわりに、やきものがそこに在る」という言葉が心に残りました。

その後、鯉江良二からバトンを受け継ぐ、現代活躍中の若手・中堅の作家を、映写機の写真で紹介されました。作品の見どころについて

の解説は大変わかりやすく、今後の陶芸作品の鑑賞

に大変参考になりました。（紹介作家—新宮さやか、服部真紀子、田中知美、川端健太郎、新里明士、大江志織、植葉香澄、高柳むつみ、加藤委、金憲鎬、滝口和男、村田森、升たか、原憲司、北村純子、鯉江明）

また、鯉江良二と金憲鎬の作品を持参いただきましたので、手に触れて鑑賞もできました。

（2013年下期入会者）新会員懇談会を開催

4月8日（火）に、2013年下期に松愛会入会の方と京都支部に転入の方、計6名の新会員（2部出席は4名）と支部長・地区委員9名で15名が参加し、2013年下期新会員懇談会を開催しました。

今回は四条河原町のビアレストラン「ミュンヘン」の和室で第1部を行い、第2部は同レストランで第2

火曜日に開催されている二火会に合流の形で行いました。

まず、第1部は細野地区委員の司会で開始。続いて永田支部長の歓迎挨拶、松愛会京都支部の沿革・概況・現在の課題等の説明と松愛会活動への積極的な参加要請を行いました。引き続き、新会員より出身事業場や退職後の近況などを含

に大変参考になりました。

（紹介作家—新宮さやか、服部真紀子、田中知美、川端健太郎、新里明士、大江志織、植葉香澄、高柳むつみ、加藤委、金憲鎬、滝口和男、村田森、升たか、原憲司、北村純子、鯉江明）

また、鯉江良二と金憲鎬の作品を持参いただきましたので、手に触れて鑑賞もできました。

最後の質問や意見では、作品の値付けの基準とかオブリエやきもので飯が食えるかなど、おもしろい質問にも丁寧にお答えいただきました。（文中敬称略）

む自己紹介をしていただきました。

次に、各地区委員が9つの同好会活動と今年からスタートするパソコン同好会についての概要説明を行い、全員で記念写真を撮影後に第1部は終了しました。

二火会に合流の第2部では、最初に新会員の紹介を二火会の日夏会長にしていた

ただき、懇親会がスタート

しました。乾杯に続いて、しばし料理・飲み物を堪能してもらいながら、新会員の皆さんから在職時のエピソードや退職後の近況をはじめ、現在取り組んでいる事柄や趣味の話などの語ら

いはお酒が入ることですらに盛り上がっていました。仕事を通じての意外なつながりや、お互いの共通の友人の存在に気づいたり、新たな思いがけない出会いや縁の深さを改めて知る機会となった様子でした。

西脇副支部長から締めめの挨拶は、今後の松愛会活動にも積極的に参加いただき、新しい風を吹き込んで、ぜひ活発な支部活動にしていけるようにお願いして、2時間はずぐに過ぎてしまいました。

ました。



新会員懇談会に参加の皆さん